

風水害のときの避難

避難に対する基本的な考え方

自らの判断で避難行動を～危険を感じたらすぐ避難しよう～

近年、台風による大雨等により逃げ遅れた住民が被害を受けるケースが多くあります。特に突発的な集中豪雨では、市からの避難に関する情報伝達が間に合わない場合もあるため、危険を感じたときには自らが判断し、避難行動をとる必要があります。風水害では、事前に気象情報等を入手することができるため、正しい情報を入手することと早めに避難行動をとることがとても重要です。

優先①

早めに安全な親戚・知人宅、自治会館等へ避難

優先②

市が開設する風水害時避難場所へ避難

優先③

避難することが、かえって危険なときは屋内で安全確保

屋内安全確保 ～命を守る最低限の行動とは～

大雨のときには、上記優先①、優先②のように早めに安全な場所へ避難する「立ち退き避難」が原則です。しかしながら、夜間や急な大雨等で家の外に避難することが、かえって危険なときは、がけや川から離れた2階以上の部屋で安全を確保するなど、命を守る最低限の行動をとることが重要です。



避難する判断ポイント

大雨時には早めの避難

がけ下や渓流沿い等に住んでいる人は、大雨の際や土砂災害警戒情報が発表されたときには、早めに近くの避難場所等の安全な場所に避難しましょう。



暗くなる前に避難

夜間に大雨が予測される際には、暗くなる前に避難することがより安全です。特に高齢者等の災害時要配慮者がいる場合は、移動時間を考えて早めに行動しましょう。



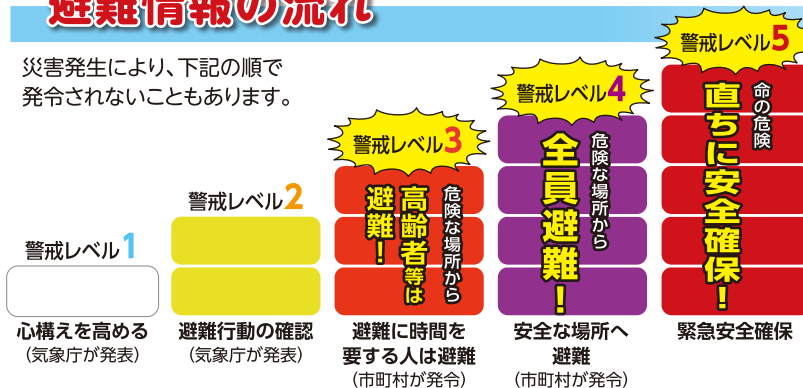
避難に関する情報が発令されたとき

市から高齢者等避難・避難指示が発令されたとき。



避難情報の流れ

災害発生により、下記の順で発令されないこともあります。



警戒レベル4避難指示で危険な場所から避難です

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市町村が避難情報と合わせて出す情報です。

警戒レベル5はすでに災害が発生している状況です。

地震のときの避難

避難する判断ポイント

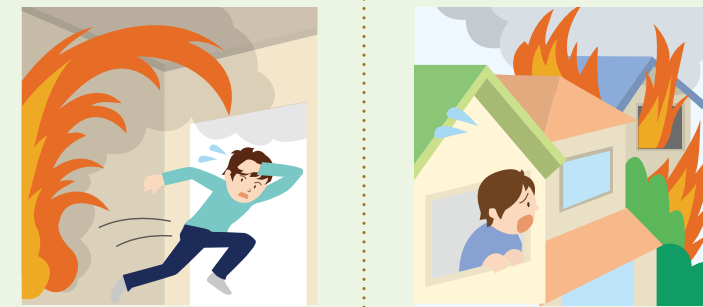
倒壊等のおそれがあるとき

自宅が倒壊するおそれがあるとき、もしくは倒壊したとき



火災が拡大したとき

自宅火災が発生し、火が天井まで燃え移ったとき
近隣で火災が発生し、延焼するおそれがあるとき



災害時も自宅で生活することが目標です

自宅を離れて避難所で生活するのは大変不自由なことです。厳しい環境の中でストレスや過労から体調を崩してしまうこともあります。自宅だと、プライバシーが守れるなど、精神的な負担も少なくなるので、自宅が安全なら、住み慣れた自宅に戻り生活を続けましょう。



避難するときは…

避難の心得と行動手順

- 1 避難する前に、もう一度火元を確認、ブレーカーを切る (通電火災を防ぐため)
- 2 ヘルメットや防災ずきんで頭を保護する
- 3 荷物は最小限の物にする
- 4 外出中の家族には連絡メモを残す

- 5 避難は徒歩で
- 6 高齢者や子どもの手はしっかり握る
- 7 近所の人たちと集団で、まず決められた集合場所に移動する
- 8 移動するときは狭い道、塀ぎわ、川べり等を避ける
- 9 安全を最優先にし、最寄りの避難場所へ

避難するときのルール

- 避難するときは混乱防止のため決められたルールと秩序を守り、お互いに協力し合うことが大切です。特に乳幼児、高齢者、身体の不自由な人を安全に避難させるために日頃から十分な対策を立てておきましょう。
- 地震発生後、車で避難すると、避難場所やその周辺等が車で混雑し、かえって避難が遅れます。様々な活動の妨げになりますので、車での避難はやめましょう。

避難するときの服装

